

平成二十年度 学力検査 「小論文問題」

石川県立野々市明倫高等学校

次の文章を読んで、以下の問に答えなさい。

大人になるって、どういうこと？

若者たちが集まる東京・渋谷の街で、こんな問いを投げかけてみた。

酒が飲める。門限がなくなる。責任を背負う。一人で生きていける。相手を思いやれる人間になる……。

あれこれ答えは出てきたけれど、さんざん首をひねった若者も多い。一筋縄ではいかない難問だったようだ。

子どもから大人へ。その節目である「成人の日」はきょうで60回目となる。

「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」。祝日法がかかげる意義は、なかなか魅力的だ。でも、「大人になることの意味」までは教えてくれない。一人ひとりが答えを探していくしかない。

そこで、一つ提案をしたい。

大人になったら、ぜひ自分の力で考え、自分の足で立ってみよう、と。

たとえば、サッカー日本代表のオشم前監督は、「走ること」とともに「考えること」を選手に求めた。生きていくうえでもサッカーと同様、考えるべきことは数限りなくある。

社会に出れば、学校で渡されたような教科書がいつもあるとは限らない。あらかじめルールが敷かれているわけでもない。そもそも正答が一つではない世の中にこぎ出していくことになる。自分なりの考えや判断が、どうしても必要になってくる。

それだけに、若者に広がる「KY」（空気を読めない）という言葉は気がかりだ。自分たちと違うと感じた相手を排除する。仲間はずれが怖いから、みんなと同じであろうと必死になる。流行語が招くこの風潮にがんじがらめになってしまうと、まわりに流され、やがて自分の意見さえ持てなくなる。

このさき、どう生きるか。どんな社会を望み、どういった政治を求めるのか。課題に向き合うたび、自分なりに考える。少なくともその努力をすることは、まぎれもなく大人の責任だ。

考えをめぐらすなかで、他人の意見に耳を傾けてもいい。でも、その発言をただうのみにするのではなく、「自分はどう思うか」と一歩立ち止まって考える。そんなくせを、まずはつけたい。

（朝日新聞 平成20年1月14日社説 『成人の日に 「KY」といわれてもいい』 より抜粋）

問一 本文を二〇〇字以内で要約しなさい。

問二 本文中の~~~~線部に関して、あなたはどうか考えるか、四〇〇字以内で述べなさい。